

◆IOE 主催のキャンプを視察

今回、セカンドハンドの職員が視察させていただいたアイ・オー・イーは、自然学校がもっているスキルやノウハウを活用し、自然の中で心と体を癒すことを目的とし、被災した子どもたちの心のケアとしての自然体験活動を提供しています。

セカンドハンドでお預かりした寄付金は、一般社団法人アイ・オー・イーを通じ、被災した子どもたちの参加費やキャンプの運営費などに充てられています。

今回のキャンプ(8/16-18の2泊3日)の参加者は小学校1年～3年までの38名、そのうち10名を被災地より招待しました。招待者は、被害の大きかった地区の小学校(今回は益城町立飯野小学校)より希望者を募って決定されました。被災地より子どもを招待するキャンプは全3回を予定し、1度に10名ずつ被災地の学校より子ども達を受入れることになっています。

招待された子どもの保護者は、「震災後、特に夜は(親と)離れて寝ることができなかったり、一人でトイレにも行けなかったりしたため、正直今回のキャンプに参加できるか親としてとても心配でした。本人に聞いたらみんないるから大丈夫というので、勇気を出して送り出しました。お迎えの時、笑顔で『楽しかったーっ!!』と帰ってきた様子をみたら、震災から4ヶ月たって夜親と離れても大丈夫になったんだと少し安心しました。今回、私自身勇気を出して送り出しましたが、本当に参加させてよかったです。子どもだけでなく、親の方も良い経験になりましたし、これからまた一つ前向きになれるきっかけになりました。本当にありがとうございました。」と話してくださいました。

キャンプの担当者は「招待者の中には、注意をして関わる必要がある子もいるが、ほとんどが笑顔になって帰っていきます。限られた期間と人数の受け入れではありますが、今回の受け入れが被災した子どもたちや保護者の皆様にとって、今後の学校生活や生活再建にむけて少しでも前向きになって頂けるきっかけになったのであればうれしいです。このようなキャンプは、約1年を通じて開催し、いただいた寄付金をなるべく多くの子ども達に還元できるように使っていきます。」と言っておられました。

アイ・オー・イーは今後、いただいた寄附金を使って、1泊2日の防災キャンプを開催することなども考えているとのことでした。

◆被害状況視察

アイ・オー・イー代表理事の山口様にご案内いただき、益城町の被害状況を視察しました。屋根が崩れた家はブルーシートで覆い、雨漏りしないようにして住み続けている人もいらっしゃるとのこと。外見は何も被害がないように見えても、応急危険度判定は赤の家も多く見られました。

